資料２

令和８年 11 月 10 日

松田町長　本山博幸　様

松田町総合計画審議会
会長　　古舘信生

松田町第７次総合計画について（答申）（案）

令和８年８月 24 日付け松第１２１３号で諮問のありました標記の件について、当審議会において慎重に審議を重ねた結果を答申いたします。

全国的に進行している少子高齢化の波は本町にも及んでおります。今後は、基本構想で掲げる将来像「いのち“育み”未来へ“ツナグ”進化“つづける”故郷 2.0」の実現に向けて、引き続き「チルドレンファーストのまちづくり」を推進し、全世代の幸福度を上げることにより、バランスのとれた人口の維持に尽力されることを望みます。

また、将来像を実現するための７つの基本目標については、さまざまな社会情勢の変化に柔軟に対応しながら、下記を踏まえ、着実かつ効果的に施策を進められることを望みます。

なお、本計画を推進するにあたっては、ＰＤＣＡサイクルによる進捗管理を遂行するとともに、町民への分かりやすい情報提供が不可欠であり、さらなる創意工夫のもと取り組まれることを期待します。

記

１　教育・文化について

チルドレンファーストのまちづくりを進めるにあたり、豊かな自然環境や地域資源を活かした質の高い教育により、子育て世代に「選ばれるまち」になるよう尽力されたい。特に、寄地区では人口減少が顕著であるが、寄幼稚園および寄小学校の存続に向けて取り組まれたい。また、子どもたちが大人になったときに「松田町」を故郷として捉えられるよう、地域との関わりを持ちつつ互いに交流する取組みを進められたい。

２　健康・福祉について

令和７年度にスタートしたこども家庭センターを中心として、子育て家庭への切れ目ない支援を充実させ、安心して子どもを産み育てられる環境づくりに取り組まれたい。また、高齢者や障がい者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、多世代が互いに見守り合う地域づくりを進めるとともに、健康づくりや生きがいづくり、フレイル予防や介護予防に重点的に取り組まれたい。

３　安全・安心について

さまざまな自然災害や犯罪等が頻発するなか、町民の安全・安心への意識は高まっており、「自助・共助・公助」に加え「近助（近所同士の助け合い）」の周知や体制づくりに取り組まれたい。また、日頃からの備えとして、建物の耐震改修や管理不全の空き家対策を促進し、災害に強いまちづくりに尽力されたい。

４　暮らし・基盤について

人口減少や少子高齢化といった課題に対応するためには、移住・定住の促進が不可欠であり、未利用地の有効活用、空き家対策等による住まいの確保や、ニーズに応じた移動手段の確保等による利便性の向上に積極的に取り組まれたい。また、本町のこれからのまちづくりにおける最重要プロジェクトである「新松田駅・松田駅周辺の整備」については、地元との連携・協働体制を強化し、円滑な事業推進に向けて尽力されたい。

５　経済・産業について

町民ニーズが高い「買い物の利便性の向上」は、効果的な人口増加策としても重要であり、駅前再開発とあわせて多様なニーズに応える店舗を積極的に誘致することにより、日常的な利便性を高めるとともに、多世代が集い、交流が生まれる拠点の創出に取り組まれたい。また、増加するインバウンドの流れを捉え、地域資源の魅力を国内外に発信し、より多くの人に訪れてもらえるまちづくりに努められたい。

６　自然・環境について

本町の強みである豊かな自然環境の保全・活用により、子どもたちが日常的に自然と触れ合える環境づくりを進めるとともに、森林が持つ多面的な機能の維持・継承に取り組まれたい。また、町民・事業者一人ひとりの環境意識を高め、行政との協働のもと「ゼロカーボンシティ」の実現に向けた地球温暖化対策に取り組まれたい。

７　実現手段について

地域コミュニティの希薄化が問われるなか、世代や新旧住民の垣根を超えた交流が生まれ、自治会や町政への関心が高まるような取組みを展開されたい。また、人口減少下における持続可能な行財政運営に向けて、より一層の協働や官民連携を進めるとともに、町民の深い理解のもと、健全な財政運営に取り組まれたい。

以上